

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)中央林間5丁目計画	階数	地上7階
建設地	大和市中央林間5丁目4364番15ほか5筆	構造	RC造
用途地域	第1種住居地域、準防火地域	平均居住人員	166人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年1月 予定	評価の実施日	2018年7月19日
敷地面積	1,586㎡	作成者	株式会社エノア総合計画事務所
建築面積	811㎡	確認日	
延床面積	3,650㎡	確認者	

外観パース等
図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.2

環境品質 (S, A, B+, B-, C) vs 環境負荷 (L)

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算: ①参照値, ②建築物の取組み, ③上記+②以外のオンサイト手法, ④上記+オフサイト手法

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q1 室内環境: 3.3
Q2 サービス性能: 2.8
Q3 室外環境(敷地内): 2.8
LR1 エネルギー: 3.8
LR2 資源・マテリアル: 2.7
LR3 敷地外環境: 3.3

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.0

Q1 室内環境 (Q1のスコア= 3.3)

音環境	3.0
温熱環境	3.6
光・視環境	3.1
空気環境	3.4

Q2 サービス性能 (Q2のスコア= 2.8)

機能性	2.5
耐用性・信頼性	2.9
対応性・更新性	3.0

Q3 室外環境(敷地内) (Q3のスコア= 2.8)

生物環境	3.0
まちなみ・景観	3.0
地域性・アメニティ	2.5

LR のスコア = 3.3

LR1 エネルギー (LR1のスコア= 3.8)

建物外皮の熱負荷	4.0
自然エネルギー	3.0
設備システム効率化	4.2
効率的運用	3.0

LR2 資源・マテリアル (LR2のスコア= 2.7)

水資源保護	3.0
非再生材料の使用削減	2.4
汚染物質回避	3.3

LR3 敷地外環境 (LR3のスコア= 3.3)

地球温暖化への配慮	4.0
地域環境への配慮	2.9
周辺環境への配慮	3.1

3 設計上の配慮事項		その他
総合 本物件は中央林間駅から徒歩10分程度の場所に位置しており、周囲には戸建住宅や低層マンションが建ち並んでいる。緑地を豊富に設けて生物環境の保全に配慮している。		
Q1 室内環境 ・全面的にF☆☆☆☆の建材を採用し空気環境に配慮する ・断熱等級4を確保し、建物の外皮性能に配慮する	Q2 サービス性能 ・耐久性のある配管材を採用し、建物の耐久性に配慮する	Q3 室外環境(敷地内) ・豊富な緑地を設け、種類豊富な樹木を植栽し温熱環境や生物環境の保全に配慮する
LR1 エネルギー ・断熱等級4を確保し、建物の外皮性能に配慮する	LR2 資源・マテリアル ・フロンやハロンを極力用いないように計画し、汚染物質含有材料の使用回避に配慮する	LR3 敷地外環境 ・広告物照明の対策を行い、光害の抑制に配慮する

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される